

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：卯辰山・ホワイトハウス

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：土原一二 幹事：山上啓介

情報委員長：米沢修一

1980・9月18日 第174号

“金沢北郊のくらし”



石川県郷土資料館副館長

今村 充夫氏

之といった大きな火災に遇わなかったためだろうか。或は三方が田圃に開いている地形のせいだろうか。古い家並みの純粋な形で残っている所が、金沢の北郊には多い。

たとえば浅野本町あたりを歩いてみよう。浅野神社の聖域を囲むように、小橋用水が浅野川の母なる水をたたえて流れ、ほとりの板塀越しに柿や石榴が、枝もたわわに四季の実りをのぞかせる。

切妻妻入りのドッシリとした家には、黒光りの年輪を刻んだ^ま馬屋があり、御上^{おえ}があり、居間があり、座敷、縁、納戸、流し、あま、土蔵、露地、井戸へと続く。

そこでは、つい廿年前まで、イリゴ、ミヨシをご飯に、胡瓜、蔓豆、蓮根をおかず、そして時には五郎島の姐さんの振り売る鰯を奮発するという生活があった。

漬物一つにも、浅漬けが一・二月、沢庵が三・四・五月、胡瓜が六・七・八月、茄子が九月、大根が十月、そして菜ッ葉が十一・十月という季節暦があったし、身につける物も、羽織・袴・大島紬という晴着と、木綿・緋の普段着と、鉄腕、股引、脚絆、バンドリの仕事着をはっきり区別するなど、つつましくもけじめのあるくらしが営まれて来た。

ほんの僅かの中に、われわれが近代化の道程の中で失ってしまったこうしたくらしは、貧しさの中の節儉と停滞の昔話とだけきめつけてよいものだろうか。

人間と人間以外のもの、森羅万象が、一つの大きな均衡を保ちながら調和共生する生き方が、強く望まれる今日的状況の中で、先人たちが営々として築いて来たこうしたいとなみの持つ意味は、重く大きい。

—金沢北RC例会講話より— (文責 清水 忠)

私 の 名 刺

落 合 義 彦



昭和20年8月15日の空は抜けるような青空で、朝から強い日差しが地上に照りはえていた。私が終戦を知ったのはその日、中学2年で東京都区内の中学から都下日野市へ帰る国電の車中であつた。

思えばあれから35年！私は昭和7年3月、当時の東京は牛込区(現在の新宿区)の早稲田大学の近くで生まれ、20年5月東京最後の大空襲で家が焼失するまで同所で成長した。その時、父は応召中で弟2人は学童疎開、その下の弟妹と祖母と母とで家を守っていたのであつた。火災に追われ、夜通し火を避けて逃げのびた翌朝、家があつたあたりへ戻った時の灰燼の匂い、逃げ遅れて焼死した人々。何年経っても、その記憶は生々しく、脳裏によみ返って来ます。

幸い本籍地である都下の日野市に旧屋が残っていたので、僅かな焼残物を纏めて転居し、それから結婚のため親許を離れるまでを同市で過した。離れ難い親友がいたので、中学を転校することなく、朝星夜星を迎ぎながら毎日もとの中学(その後新制高校となる)へ通つたのも、今は懐しく思い出されるが、交通事情、食糧事情の極端に悪かつた当時のこと、よく続いたものとも思う。戦災のため、家計も一挙に苦しくなつていた。

大学に入つてからもそうであるが、私は先生と友人には小学校以来本当に恵まれていたと思う。高校卒業時、家の将来を考え、就職しようか進学しようか迷つたが、恩師の暖かい配慮もあり、親友らと共に東大へ進学することができたのである。当時は親友の影響もあり、多少文学づいてもいたが、早く家計の助けを因るため経済学部へ進み、昭和29年、卒業と共に現在の住友海上火災保険株式会社に入社したのであつた。

入社以来、東京本店に於て、貨物海上保険部門、人事部門を経て、昭和49年に初めて東京を離れ大阪の総務部門、神戸支店の営業部門を経て今夏金沢へ転勤、北陸三県が管轄下のため東奔西走、未だ落ち着かない毎日を送っている次第である。関西在勤中は、暇を見出しては奈良・京都といった古都の風物に接し、東京と違つた歴史の古さに目を洗われる思いをしました。この度また加賀百万石の城下町金沢に居住、変貌を遂げつつも、しっとりした詩情あふれるこの街の春夏秋冬に触れて自然や人間の営みというものを改めて見つめ直してみたい、そのことを通じて自らの人間性を少しでも豊かにしたいと念じております。

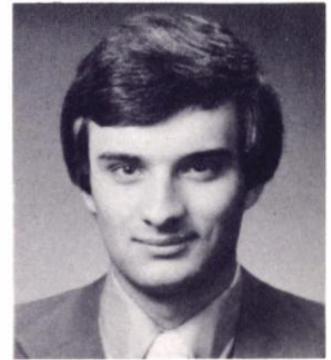
転任早々、前任高他支店長同様名誉ある「金沢北ロータリークラブ」に入会を許されましたのも山岸与作様と小林隆二様の御推薦の上に、会員の皆様方のご厚志があつたればこそと、心から感謝しております。今後はクラブの一員として、その名を汚さぬよう、またロータリー精神を少しでも多く体得できるよう努力する所存でありますので、どうかよろしくご指導下さいますようお願い申し上げます。

歴代、国際ロータリー会長の指針

1963～64年度 カールP.ミラー(米国)

1. 個人対個人。
2. クラブ対クラブ。
3. 地区対地区。

修練委員会



交換学生
ジョン・ワレンタ君より

みなさん、お元気ですか。私は毎日元気で勉強しております。から御安心下さい。すぐに手紙を書かず本当にすみませでした。悪かったのですけれども帰国してからずっと忙しかったのです。又、やはり私はまた自分の思っているも日本語で上手に表現できないうちはないかと心配しております。その上に書き方もあまりうまくないでしょうね。しかし、日本語で手紙を書けば書くほどよくなると思えます。

先月金沢も出てから山下さんと東京へ行ったと言うことももうご存じでしょうけど、東京で国際キリスト教大学を見に行きましたし、本当に感じていたんですよ。まさかここで勉強することになるだろうと思えます。二年間してから。しかしどうなるかまだハッキリ分らない。バツファロー大学としまいで、金沢大学に入るかも知れない。とにかく分る様になること知らせて上げるよ。

来週学校は始まります。アナリカの大学は宿題が大変で今からがんばりますよ。長手紙も書くことが出来ずにすみません。後はじまた長い手紙を書きます。どうぞおからだもお大事に。みなさんにもよろしく。

八月二十五日

John Wrenata

8月例会出席状況

出席率 98.21%

会員名	月日	8月					8月	会員名	月日	8月					8月
		8/7	8/14	8/21	8/28					8/7	8/14	8/21	8/28		
浅田 久明	M	M	○	○		○	二 二郎	○	○	○	○		○		
浅野 弘識	○	○	○	○		○	精 三	○	M	○	○		○		
出島 敬正	○	○	○	○		○	村 太郎	○	○	○	○		○		
二木 川幸	○	○	○	○		○	林 太郎	○	○	○	○		○		
長谷 場一	M	○	○	○		○	田 健太	○	○	○	○		○		
橋本 尾信	○	○	○	○		○	田 哲三	○	○	○	○		○		
平江 美夫	○	○	○	○		○	柴 三	○	○	○	○		○		
本川 他	○	○	○	○		○	清 水	○	○	M	○		○		
市川 健	○	○	○	○		○	下 村	○	○	○	○		○		
飯野 村	○	M	○	○		○	塩 鈴	○	○	○	○		○		
今石 丸	○	○	○	○		○	庄 高	○	○	○	○		○		
上野 次	M	○	○	○		○	館 依	○	○	○	○		○		
笠木 仁	○	○	○	○		○	土 田	○	○	M	○		○		
木下 吉	○	M	○	○		○	原 田	○	○	○	○		○		
小林 隆	○	○	○	○		○	外 一	○	○	○	○		○		
小間 宏	M	○	○	○		○	一 成	○	○	○	○		○		
小野 民	○	○	○	○		○	二 信	○	○	○	○		○		
小杉 守	○	○	○	○		○	成 彦	○	○	○	○		○		
小杉 善	○	○	○	○		○	一 朗	○	○	○	○		○		
小増 江	○	○	○	○		○	作 男	○	○	○	○		○		
本岡 太郎	○	○	○	○		○	繁 修	○	○	○	○		○		
宗田 次	○	○	○	○		○	昭 賢	○	○	○	○		○		
中村 三	○	○	○	○		○	一 海	○	○	○	○		○		
中村 合	○	○	○	○		○							○		
落合 彦	○	○	○	○		○							○		
大場 雄	○	○	○	○		○							○		

